

看護学同窓会便り No. 15

令和元年11月23日発行
連絡先
電話・FAX 095-819-7946
同窓会事務局 中尾

会長あいさつ

会長 浦田 秀子

会員の皆様におかれましてはお健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。

今年も一つの災害を忘れる間もなく別の災害が起きるように自然災害が頻発しました。災害発生に伴うライフラインの被害から人々の命と生活を守るために、災害に備える力について今年は特に考えました。被災された同窓生の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早く日常を取り戻せますようお祈り申し上げます。

6月24日から7月1日、シンガポールで開催された国際看護師協会(ICN)大会に参加してまいりました。「Beyond Healthcare to Health 保健医療ケアを越えて健康に」をテーマに、およそ120以上の国・地域から5,000名以上が集まり、基調講演、シンポジウム、分科会、研究発表(口演、ポスター発表)などのセッションが実施されました。災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)の在学生および修了生が修士論文の一部を発表させていただきました。外国で活躍する日本の看護師と交流できたこと、放射線看護に関心があり、ポスター会場においていただいた方々と情報交換できたことは大きな収穫でした。次期2021年大会は、アラブ首長国連邦・アブダビで開催されます。

今年も保健学科14回生69名を新入会員としてお迎えすることを心より嬉しく思います。新たな「令和」の時代になり、母校は116年目を迎えました。「継承そして発展」のため同窓会の目的を果たすべく、活動内容も検討して参りたいと思います。同窓会事業を推進していくためにも会員の皆様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

令和元年度の同窓会総会、懇親会を11月23日に開催いたします。お誘いあわせの上、ご出席下さいますようお願い申し上げます。会員の皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



平成30年度庶務報告

- 平成30年度入会者 77名
平成31年度入会者 69名
- 経過報告
 - 同窓会総会 平成30年11月23日
 - 理事会開催 3回
 - 慶弔
 - 3月25日 医学部保健学科卒業式 お祝い：生花スタンド
 - 物故者へ弔電
 - 原爆慰霊祭に浦田会長献花、生花寄贈
 - 看護学研究奨励賞運営
 - 同窓会だより No. 14発行

同窓会員数

総数	3,983名
養成所	258名
厚生女学部	133名
看護学校	1,296名
医療短大	1,200名
保健学科	1,071名(医療短大の卒業生7名を除く)
修士課程	22名(看護学校、医療短大、保健学科の卒業生26名を除く)
名誉会員	0名
準会員	3名



2019年9月30日現在

看護師になって

牧野 愛(保健学科14回生 長崎大学病院12階東病棟)

この春、大学を卒業し、長崎大学病院の乳腺・内分泌外科、リウマチ・膠原病内科、内分泌・代謝内科病棟に勤務させていただいています。期待と不安で始まった看護師の生活も、半年が過ぎました。業務を覚えることに必死で、つらいことも多くありましたが、親身になって指導して下さる先輩方に支えられ、日々精進している毎日です。そして、半年が経ったいま、受け持ち患者さんがつくことになりました。入院から手術、そして退院までの一連を共にし、元気になっていく姿をみて喜びを感じると同時に、責任感の大きい仕事であるということを改めて感じています。

最近、ある患者さんから「看護師さんの笑顔は患者を癒す力がある。私たちも頑張ろうって自然と笑顔になるんです。」と言われ、思わずはっとしました。入職したときに掲げていた「笑顔で患者さんと接し、安心感を与えられるような看護師になる」という目標も、忙しい業務に追われる中で、疎かになっていなかったのか不安になったと同時に、先輩方のような豊富な知識と数多くの経験は持ち合わせていませんが、“笑顔”や“傾聴する”など新人の私にでもできることはあるのではないかと考えるようになりました。不安・悩みのある患者さんやご家族に対して、うまく言葉が出てこなかったり、望んでいる回答ができなかったりと期待に応えられないことも多々あります。しかし、患者さん・ご家族のために、“今の自分は何ができるのか”ということを常に考え、患者さんの言葉を胸に、つらいときこそ笑顔を忘れず、接していきたいと思えます。

私の看護師人生はまだ始まったばかりですが、恵まれた環境に日々感謝しながら成長していきたいと思えます。



平成30年度同窓会総会の様子



新人さんの自己紹介

平成30年度同窓会懇親会の様子

在宅高齢者への支援時の看護の視点の大切さ

森 礼美(保健学科6回生、居宅介護支援事業所 山の手)

私は卒業後、病院や訪問看護事業所で経験を積ませていただき、現在は居宅介護支援事業所の介護支援専門員をしています。近年の高齢化に伴い医療ニーズを併せ持つ重度の要介護者や認知症高齢者が増加しており、在宅高齢者の支援では病気と共存しながら生活の質の維持・向上を図るために医療と介護の連携が重要です。医療との連携の際には、看護師の経験が役立ちます。例えば、退院前カンファレンスへの参加した場合、医療面の説明は必然的に専門性が高くなるのですが、家族の理解を助け、利用予定の介護事業所に医療面での注意点を正確に分かりやすく伝える事が出来ます。一方で、訪問時に自宅内に看護の視点から「指導」したい状況があってもすぐに指摘はしないようにしています。その理由は、高齢者にとって信頼関係ができていない時には、私がいくら専門職であっても高齢者自身の生活に入りこんでくる人であり、シャットアウトされることもあるからです。その人の生命に危険が及ばない限りは時間をかけ提案を受け入れて貰えるよう関わり続けます。「あんたが言うならそうしてみようかね。」の言葉を聞くまで半年以上かかった事例もありますが、一緒に生活課題を解決できたことが次への原動力になります。そして、その事例と関わり続ける間の過程を面白いと感じるところが在宅の不思議な魅力です。今後も私が得た看護の知識と経験を総動員して高齢者の生活を支援していきたいと思えます。

厚生労働省に入省してからの近況について

八田 睦美(医短1回生、厚生労働省、JCHO本部)

医短を卒業後、東京都内の大学病院に勤務し、その後、病院や訪問看護、地域包括支援センターでの勤務を経て、平成21年に厚生労働省に看護技官として入省し、本年4月から、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)本部に出向しております。

医短を卒業して、気づけばあっという間に30年以上が経ちました。1回生は、4月に入試があり、5月に開学という異例のスタートだったためか他県の出身者が多く、また、私もそうでしたが、看護学科が第一志望ではなかったという同級生もそこそこいて、ちょっと変わったクールな学年だったように記憶しています。

そんな私が、今も看護の仕事に携わり、厚生労働省で働くようになったことは、当時の自分からすると想像もつきませんが、今思うと、たぶん急性期の病院があまり性に合わず、看護以外の仕事に就いたり、大学編入のために社会的入院の方も多く受け入れている定時で帰れる病院に勤務したことで多くの疑問を抱えたことが、地域看護や介護などの政策に興味を持つきっかけになったような気がします。そして、厚生労働省に看護技官という仕事があることを知り40歳過ぎてからのかなり遅い再スタートでありましたが入省することになりました。

厚生労働省では、主に介護保険や医療保険など、社会保障にかかわる部署で仕事をしてきました。入省当初は、独特の霞が関用語や一人当たりの業務量の多さ、国会答弁作成など毎日戸惑うことばかりでした。また、現場の看護師の時は、法律や報酬など制度について意識することはほぼありませんでしたが、報酬改定など制度を変えるには、まず内容を理解し、その根拠となるデータを示し、審議会などで議論してもらい関係者の理解を得なければいけません。これからますます高齢化が進み、働き手も税収も減る中で、負担する側とサービス受ける側、双方が合意できる制度を作るのは難しくもありますが、担当していたことが何年かたって当時目指していた姿に近づいているか確認できるというのは他ではなかなかできない経験だったと思います。

今年4月からは、JCHO(地域医療機能推進機構)本部経営企画部地域包括推進課に出向し、JCHO全57病院がもつ介護老人保健施設など介護部門を担当しています。公立・公的医療機関は、地域医療機能構想の実現に向け再編統合の検討がなされるなど、大変な時期を迎えています。これまで国の立場ですすめてきた在宅療養支援や地域包括ケア推進など、高齢者の方が可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活を継続できるよう、少し現場に近いところで、引続き取り組んでいきたいと思っています。



物故者のお知らせ

お知らせいただいた方を掲載しております

橋本美穂(旧姓 菅藤)	養成所12期生	逝去日	平成21年9月
都留エミ(旧姓 上田)	養成所15期生		平成30年11月27日
黒山キミ子	養成所18期生		平成31年1月6日
岩谷節子(旧姓 町田)	厚生女学部1回生		令和元年6月2日
川良玲子	看学2回生		平成30年11月29日
松本レツ子	名誉会員		平成30年11月15日

表彰者

瑞宝双光章 高口 栄子 看護学校13回生
日本看護協会会長表彰 中村 君子 看護学校24回生



ホームページのご案内

長崎看護学同窓会のホームページで皆さまへのお知らせやご報告、ニュースレターなどの情報発信を行っております
<https://www.nagasaki-kango.org> “http”が“https”と変更されました。ご留意願います

お願い

お近くに同窓会便りが届いていない同窓生がおられましたら、事務局への連絡をお伝えください。

令和元年度看護学研究奨励賞受賞者ならびに 次年度募集について

2005年よりスタートしました看護学研究奨励賞も今年で15年目となります。これまで34題の研究課題に研究奨励賞を授与することができました。本年度は一題の応募でしたが、これからも若手研究者の応援サポーターとして細く長く続いていくことを祈ります。総会では授賞式とともに、昨年授賞された研究2題の発表を予定していますのでぜひご出席下さい。

〈本年度受賞の研究課題〉

①「長崎大学病院における無侵襲的出生前遺伝学的検査(Noninvasive prenatal genetic testing)導入前後の出生前検査の比較」
宮田海香子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻看護学 博士課程1年)

〈総会で発表予定の研究課題〉

①「高度生殖補助医療を受けた患者のQOLに影響する要因」

石橋理恵子(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座助産師養成コース)

②「日本語版CS-DS(ダウン症者の認知評価尺度)の信頼性と妥当性の検証」

高尾 真未(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻遺伝看護・遺伝カウンセリングコース)



平成30年度授賞式の様子

☆次年度も以下の日程で募集しますのでご応募ください。臨床の現場からの応募をお待ちしています。

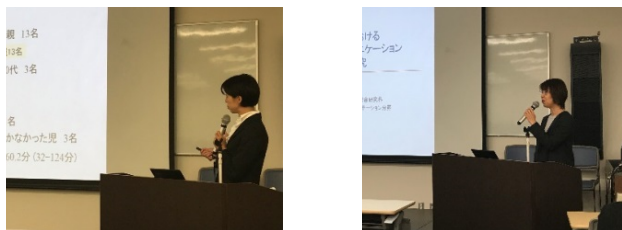
応募期限: 令和2年6月20日～7月20日

詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先: 勝野久美子

(長崎北病院 Tel 095-886-8700

e-mail: kita_k_katsuno@shunkaikai.jp)



平成30年度研究発表の様子

2019年度看護学同窓会理事名簿

役職・氏名	卒業回	所属・連絡先
名誉会長 加藤 奈智子	看学2	
会長 浦田 秀子	看学21	原爆後障害医療研究所 819-8515
副会長 萩原 絹子	看学28	社会医療法人春回会 長崎北病院 886-8700
勝野 久美子 (看護学研究奨励賞担当)	看学27	
書記 小淵 美樹子	看学36	長崎大学病院 819-7522 医学部保健学科 819-7946
中尾 理恵子	医短3	
会計 鳥越 絹代 齊藤 美保	医短1 医短2	長崎大学病院 819-7401 長崎大学病院 819-7523
監査 下田 澄江 田添 京子	看学20 看学22	
学外理事 平湯 路子 荒木 宣代 山口 則子 林田 英子 久松 千鶴香	看学6 看学10 看学15 看学21 看学26	長崎市医師会看護専門学校 長与町役場
鈴木 尚子 鈴木 由布子	看学30 保健6	
学内理事 森藤 香奈子 (看護学研究奨励賞担当)	医短10	医学部保健学科 819-7981
大山 祐介	医短15	医学部保健学科 8419-7915
後田 実知子	医短2	長崎大学病院 819-7596
福田 昌恵	看学34	長崎大学病院 819-7424
中村 千代美	看学36	長崎大学病院 819-7798
片山 哲也	医短8	長崎大学病院 819-7767
張川 恭子	医短10	長崎大学病院 819-7424
森下 暁	保健2	長崎大学病院 819-8555

* 編集後記 * 長崎の看護の歴史が刻まれながら、同窓会便りは15号を発行することができました。病院や地域、そして社会に向けてさまざまな形で看護実践、看護発展に寄与されている皆様の姿を受け、私もやる気があふれてきました。また同窓会便り、総会、懇親会で皆様方とつながりを感じられ、うれしく思います。懇親会ではぜひお声かけください。(保健学科2回生 森下暁)